



# 青の煌めき<sup>きら</sup>あおもり国スポ

## 2026 翔ける未来へ縄文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会

第80回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会は、青森県大鰐町（アルペン・クロスカントリー）および秋田県鹿角市（スペシャルジャンプ・コンバインド）を会場として、2026年2月14日から17日までの4日間にわたり開催されました。

北海道選手団は、押切敬司総監督のもと、総務1名、監督・コーチ・トレーナー15名、選手59名の計76名で大会に臨み、全国トップレベルの選手たちと連日熱戦を繰り広げました。

大会の開催にあたり、多大なるご支援とご尽力を賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。監督・コーチ・トレーナーによる献身的な指導・支援のもと、選手一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、



北海道選手団は男女総合成績123点を獲得しました。その結果、スキー競技会において総合第2位となり、惜しくも総合7連覇は逃したものの、全国の強豪都道府県と互角に渡り合う素晴らしい成績を収めることができました。また、女子選手の連日にわたる活躍により、女子総合成績22点を獲得し、女子総合第6位入賞という輝かしい成果を挙げることができました。

### 北海道スキー選手団（成績）

#### スペシャルジャンプ

【成年男子A組】1位 藤田慎之介（Farm Fujita）2位 池田龍生（雪印メグミルクスキー部）4位 山根和治（東京美装グループスキー部）

【成年男子B組】8位 細田将太郎（GROWTH Sapporo ski club）

【少年男子組】1位 佐々木星語（札幌日本大学高等学校）3位 長谷川琉已（北海道下川商業高等学校）4位 高橋劉成（北海道下川商業高等学校）5位 姫野蒼大（札幌日本大学高等学校）6位 森大耀（東海大学附属札幌高等学校）11位 清水絢心（札幌日本大学高等学校）



## ノルディックコンバインド

【成年男子A組】5位 森恢晟（東海大学） 8位 千葉大輝（日本大学） 9位 千葉悠希（サッポロノルディックスキークラブ）

【成年男子B組】8位 湊裕介（朝日スキー連盟）

【少年男子組】6位 近藤絆（北海道下川商業高等学校） DS 菅原暁仁（ブレイズスキーチーム）

## ジャイアントスラローム

【成年男子A組】6位 今村心温（日本体育大学） 7位 佐藤大虎（SS HOLLIDINGS SC） 33位 進藤拓海（平塚建具製作所）

【成年男子B組】3位 新賢範（Brain） 7位 中川慎（マイナビ） 12位 加藤優（北海道旭川養護学校）

【成年男子C組】2位 小林大郁（北海道銀行） 20位 木村翔馬（きむら歯科） 23位 木内忠幸（小樽市消防本部）

【少年男子組】1位 五十嵐暖（小樽双葉高等学校） 3位 ブイチック 龍馬（東海大学付属札幌高等学校） 4位 小林桂（東海大学付属札幌高等学校） 6位 山田悠貴（小樽双葉高等学校） 9位 伊藤瑠泉（札幌第一高等学校） 42位 鈴木瑛太（小樽双葉高等学校）

【成年女子A組】3位 山田悠可（日本体育大学） 12位 天野ひかり（日本大学） 17位 布目朱理（立命館大学）

【成年女子B組】6位 押切葵（三笠レーシングチーム） DF 村松晶子（福井コンピューターアーキテクト）

【少年女子組】6位 田野双葉（小樽双葉高等学校） 17位 石水ほたる（小樽双葉高等学校） DF 谷柚子菜（旭川明成高等学校） DF 玉川朝彩（小樽市立望洋台中学校）

## クロスカントリー

【成年男子A組】5位 森稟桜（自衛隊体育学校） 11位 藤原天聖（早稲田大学）

19位 野村拓夢（JR北海道スキー部）

【成年男子B組】8位 蜂須賀優駿（JR北海道スキー部） 9位 松村垂斗夢（JR北海道スキー部）

12位 佐藤友樹（JR北海道スキー部）

【少年男子組】19位 小池祥平（富良野高等学校） 24位 関胡太朗（倶知安高等学校） 25位 原田武道（倶知安高等学校） 26位 船場凱安（倶知安高等学校） 30位 佐藤慶（富良野高等学校）

33位 山本陽崇（倶知安高等学校）

【成年女子A組】4位 栃谷天寧（日本大学） 11位 岩佐奏葉（早稲田大学） 12位 金津美雪（日本大学）

【少年女子組】13位 金津美和菜（富良野高等学校） 14位 高橋柚季（美幌高等学校） 15位 桐山日和（美幌高等学校） 22位 長岡はな美（喜茂別中学校）

【成年男子組リレー】1位 佐藤友樹・森稟桜・蜂須賀優駿・藤原天聖

【少年男子組リレー】5位 原田武道・関胡太朗・小池祥平・船場凱安

【女子組リレー】4位 長岡はな美・金津美和菜・栃谷天寧・岩佐奏葉



## 第1回日韓中少年冬季スポーツ交流事業

＝スポーツ庁国庫補助事業＝

日本、韓国、中国の3か所の青少年が、スポーツ交流を通じて多様な考え方や異文化に触れる機会を創出し、東アジア地域の平和と友好に満ちた社会の構築に寄与する。

### クロスカントリー選手団

【総監督】青嶋湧士

【監督】福田旭 伊藤伸太郎

【選手】長堀新・松本一太・押切柊真・本田晃佑・今野玄・阿部達晴

松林和花・越田月紫・荒木彩花・工藤穂波・阿部七海・田中志依

指導者（3名） 選手（12名）



クロスカントリーチームは、引率3名、選手12名での参加でした。初日は全道各地の選手がバスで旭川に集合し、オリエンテーションを行いました。実際の交流自体は翌日からの子供でしたが、夕食会場で韓国選手団に会うことができ、日本選手が積極的に韓国選手に話しかける姿が見られました。前回の交流にも参加して下さった越田さんを中心に、選手は全日程を通して意欲的に交流していました。

交流期間に韓国国内で大会が行われている影響もあり、韓国はビギナーレベルの選手3人（男子2名、女子1名）

の参加でした。2日目からの合同練習では、コースの試走だけでなく、「鬼ごっこ」や「だるまさんがころんだ」など、日本選手が自分たちで考え、ゲーム形式のメニューを取り入れながら練習を盛り上げていました。韓国選手は、日本選手と技術的・体力的な差はありながらも終始笑顔で合同練習に参加してくれていました。

4日目には、男女ともに5kmフリー（2.5kmコースを2周）のインターバルスタート形式でタイムレースを行



いました。初日から高気温が続き、雪が湿り、スキーに張り付くようなコースコンディションでした。そのため、下り坂もあまりスピードが出ない、上り坂は足がとられるような状態でした。そのような中、先にゴールした選手は疲れがありながらも、すぐにコース脇に移動し、国に関係なく声援を向ける様子に、本交流の成果がよく表れているように感じました。また、雪上での交流後は、日韓選手団で旭山動物園に行ったり、歓送夕食会での出し物練習をしたりし、一層親交を深めていました。今回の交流では、旭川スキー連盟様のお力を借り、コース整備や役員の



招集、交流レースの運営などを行っていただきました。バーサー大会の時期と重なったり、平日で自身の仕事もあったりする中、御協力いただき無事に本交流を終えることができました。事務局の佐々木様をはじめ、御尽力いただきました。全ての皆様に厚く御礼申し上げます。また、円滑な交流の実施のために欠かせなかったのが、通訳の半田様と金様のお力でした。全く携わったことのない競技で不安だったかと思いますが、最後は「クロスカントリーチーム



に関わることができてよかった」と仰っていただき、コーチ陣としても、お2人のお陰で素晴らしい交流になったと思います。御支援いただきありがとうございました。昨年度韓国で開催された本交流では、韓国側から多くの温かい「おもてなし」をいただきました。旭川は平昌のようなオリンピック会場より規模は劣るかもしれませんが、日本選手団一丸となって、前回の恩返しをすることができたと思います。また、選手たちも貴重な経験を通して、スポーツがもつ力を身に染みて感じることもできたと思います。次回は、中国での開催が予定されているということですが、

もう一度、三か国での交流が実現することを心から祈念おります。

結びに、大韓体育会、日本スポーツ協会、北海道スポーツ協会、北海道スキー連盟の皆様には大変お世話になりました。今後も本交流が継続し、スポーツを通して国と国との間に架け橋がかかることを願っています。

## アルペン選手団

【総監督】川端絵美

【監督】三野伸治・松浦理央

【選手】福井颯斗・早川響人・佐藤奨真・伯谷慶太・南弦之介・川本晃輔・水野太晴・小林慶大  
川田真凜・土屋祥愛・片倉陽菜・千葉綾乃・大黒眞優・三野結愛・鐘築千愛・泉沙良  
指導者（3名） 選手（16名）

第2回目となった今年度の「日韓青少年冬季スポーツ交流アルペンスキー競技」は、朝里川温泉スキー場（宿泊：札幌プリンスホテル）にて開催されました。昨今の社会情勢に伴い、今回は中国が不参加となり、日本と韓国の2カ国間による交流事業となりました。宿舎からスキー場まではバスで片道50分ほどを要する移動ではありましたが、大会期間中は天候にも恵まれ、終始絶好のコンディションの中で行程を進行することができました。現地到着の翌日からは2日間の合同練習を実施。当初、日本の慣れない雪質に戸惑う場面も見受けられましたが通訳の方たちにもお手伝い頂きスタッフ間でコミュニケーションを密に取り合いながらトレーニングを進めました。





練習中、最初は言葉や文化の壁を意識していた選手たちでしたが、一緒にリフトに乗って言葉を交わしたり、お互いのSNSを交換し合ったりして、積極的にコミュニケーションを図る姿が見られました。今回、日本選手団は直後に次戦のレースを控えていたため、最終日の歓送夕食会に出席できないというスケジュール上の制約がありました。そこで、初日の練習日の夜に急遽、韓国選手団と男女に分かれて合同の出し物を企画。限られた時間の中でアイデアを出し合ったり、ダンスを教え合ったりしながら、夕食会で放

映するためのビデオ撮影を行いました。最初はお互いに距離感があった選手たちでしたが、この共同作業を通じて一気に打ち解け、国境を越えた友好関係が急速に深まりました。監督者会議においては、レース方式について「2本合計タイム方式」を採用することを決定。スタート順はオールドローとし、日本選手と韓国選手が交互にスタートすることとしました。本番当日、選手たちは程よい緊張感と高い集中力を持



ってレースに臨み、それぞれが臨機応変に準備を整えてスタートしていきました。結果については、チーム内での順位や両国を合わせた全体順位を踏まえ、選手たちなりに多くの刺激や今後の課題を感じ取っていたようです。競技終了後はゲレンデ下に集合してペナントを交換。選手・指導者ともに互いの健闘を称え合い、記念撮影の後も和やかな

交流が続きました。最終日の歓送夕食会では、初日の夜に両国選手が協力して制作したビデオ映像が放映され、会場は大いに盛り上がりました。出席は叶いませんでしたが、映像を通じて日本チームの熱意と感謝の思いを伝えることができたと考えております。3カ国での開催が叶わなかったことやスケジュールの制約はあったものの、それを補



て余りあるほ



ど、互いに手を携えて親睦を深め、さらなる異文化理解につながる大変有意義な事業となりました。結びに、本交流に向けて万全のご準備と温かいおもてなしをいただきました開催地・関係者の皆様、ならびにご来日いただいた韓国選手団の皆様へ深く感謝申し上げます。また、ご支援・ご協力いただきましたすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

令和8年度 主催事業

北海道スキー選手権大会・北海道技術選手権大会

競技名	種目	開催日	開催地
ジャンプ	ノーマルヒル	2025年12月19日	名寄ピヤシリシャンツェ
コンバインド	前半ジャンプ	2025年12月19日	名寄ピヤシリシャンツェ
	後半クロスカントリー	2025年12月19日	名寄健康の森競技場
クロスカントリー	クラシカル	2026年1月16日	名寄健康の森競技場
	フリー	2026年1月17日	名寄健康の森競技場
	リレー	2026年1月18日	名寄健康の森競技場
アルペン	スラローム	2026年2月1日	朝里川温泉スキー場
	ジャイアントスラローム	2026年1月24日	えんがるロックバレースキー場
	スーパージャイアントスラローム	2026年2月15日	カムイスキーリンクス
マスターズ	ジャイアントスラローム	2026年2月11日	桂沢国設スキー場
スノーボード	ハーフパイプ	2026年3月12日	さっぽろばんけいスキー場
	アルペンパラレルスラローム	2026年2月19日	国設阿寒湖畔スキー場
	ビッグエア	2026年3月22日	ニセコモイワスキーリゾート
フリースタイル	ハーフパイプ	2026年3月12日	さっぽろばんけいスキー場
	エアリアル	2026年1月31日	美深スキー場
	デュアルモーグル	2026年2月14日	さっぽろばんけいスキー場
	モーグル	2026年2月15日	さっぽろばんけいスキー場
	ビッグエア	2026年3月22日	ニセコモイワスキーリゾート
技術選手権大会	北海道スキー技術選手権大会	2026年1月30日 ～2月1日	ルスツリゾート
	北海道マスターズスキー 技術選手権大会	2026年2月13日 ～2月15日	ルスツリゾート
	北海道ジュニアスキー 技術選手権大会	2026年3月14日 ～3月15日	びっぷスキー場
	北海道スノーボード 技術選手権大会	2026年2月7日 ～2月8日	朝里川温泉スキー場
	北海道ジュニアスノーボード 技術選手権大会	2026年2月7日 ～2月8日	朝里川温泉スキー場

## SAH Enjoy Powder Snow

「FIS Bring Children to the Snow～子供たちを雪の世界へ～」という事業が2025-2026シーズンから行わないと発表されましたが、本連盟としては、地域と共にスノースポーツの魅力をお子に広めていきたいという思いに変わりはなく、**北海道スキー連盟普及振興事業「SAH Enjoy Powder Snow」**という事業名で、引き続き普及振興事業を実施いたしました。

本連盟加盟団体66団体と道内の総合型スポーツクラブなどに募集を行い、9団体から申込みがありました。実施にあたり、これまでの実績や企画内容をマーケティング委員会にて精査し、主催事業として6か所への助成金と、協力イベントとして3か所を認定し開催いたしました。

プログラム名	開催日	会場
SAH Enjoy Powder SNOW!! in はじめてのスキー教室	2026年1月6日～8日	石狩ふれあいの杜公園
SAH Enjoy Powder SNOW!! in 苫前三角点スキー場	2026年2月7日	苫前三角点スキー場
SAH Enjoy Powder SNOW!! in 第34回稚内しんきんウィンターフェス2026 in 枝幸三笠山	2026年2月8日	三笠山スキー場
SAH Enjoy Powder SNOW!! in そっち岳スノーフェスティバル	2026年2月15日	そっち岳スキー場
SAH Enjoy Powder SNOW!! in おたる～スキーあそびとジュニア検定～	2026年2月23日	スノークルーズオーンズ
SAH Enjoy Powder SNOW!! in 中川・スノーフェスタ	2026年3月1日	中川スキー場
SAH Enjoy Powder SNOW!! in 雪育フェス in るもい	2026年3月22日	神居岩公園
<b>協力事業</b> SAH Enjoy Powder SNOW!! in 沼田町第76回町民スキー大会	2026年2月8日	ASHIMOI KANKO 高穂スキー場
<b>協力事業</b> SAH Enjoy Powder SNOW!! in インクルーシブスキー イン モイワヤマ	2026年2月21日	藻岩山スキー場

本連盟にご協力・ご賛同いただきました全道各地の団体及び各地のスキー連盟様に厚くお礼申し上げます。活動の詳細についてはホームページより閲覧できます。

## 北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム

北海道スキー連盟では、スポーツ推進に関する事業を行い、スポーツを振興して、道民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に活動をしております。この目的を達成するために、マーケティング委員会では「北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム」として、北海道スキー選手権大会、強化合宿、普及事業等に活用する為に企業様にセールスを行い、2025-2026 シーズンは、8社よりプログラムにご参加いただきました。

本連盟の活動へご賛同いただきました、スポンサー、ご寄附を賜りました各社、皆様に厚くお礼申し上げます。

### SAH Official Sponsors



**JAPAN  
AIRLINES**



Love Earth. Love Life.  
**雪印メグミルク**



### SAH Bib Sponsors

Ski Jumping / Nordic Combined



Freestyle

**北海道新聞社**

#### 【寄付金者様】

株式会社エゾデン、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、アサヒ飲料株式会社

発行

公益財団法人 北海道スキー連盟 〒062-0904 北海道札幌市豊平区豊平4条5丁目1-18  
TEL: 011-820-1780 FAX: 011-820-1781 URL: <https://www.ski-hokkaido.jp/>